

1 小学校

	国語A					国語B					算数A					算数B					5年間 全調査 平均
	H26	H27	H28	H29	H30	H26	H27	H28	H29	H30	H26	H27	H28	H29	H30	H26	H27	H28	H29	H30	
	東松島市	68.6	67.2	67.8	73	64	46.0	59.4	51.3	55	49	70.6	71.2	71.5	75	56	48.7	41.6	40.4	40	
宮城県	74.2	69.6	72.0	74	69	54.3	63.9	56.2	56	53	77.3	74.1	76.5	77	62	56.8	42.7	45.6	44	49	62.4
全国	72.9	70.0	72.9	74.8	70.7	55.5	65.4	57.8	57.5	54.7	78.1	75.2	77.6	78.6	63.5	58.2	45.0	47.2	45.9	51.5	63.7
県比較	-5.6	-2.4	-4.2	-1.0	-5.0	-8.3	-4.5	-4.9	-1.0	-4.0	-6.7	-2.9	-5.0	-2.0	-6.0	-8.1	-1.1	-5.2	-4.0	-6.0	-4.4
全国比較	-4.3	-2.8	-5.1	-1.8	-6.7	-9.5	-6.0	-6.5	-2.5	-5.7	-7.5	-4.0	-6.1	-3.6	-7.5	-9.5	-3.4	-6.8	-5.9	-8.5	-5.7

2 中学校

	国語A					国語B					数学A					数学B					5年間 全調査 平均
	H26	H27	H28	H29	H30	H26	H27	H28	H29	H30	H26	H27	H28	H29	H30	H26	H27	H28	H29	H30	
	東松島市	76.4	71.3	75.9	70	74	44.4	61.5	65.2	64	56	58.0	57.0	57.4	53	62	49.5	34.2	40.5	37	
宮城県	80.3	76.1	76.9	77	77	52.0	66.2	67.9	73	62	65.6	63.1	60.4	63	65	59.4	40.7	43.8	47	47	63.2
全国	79.4	75.8	75.6	77.4	76.1	51.0	65.8	66.5	72.2	61.2	67.4	64.4	62.2	64.6	66.1	59.8	41.6	44.1	48.1	46.9	63.3
県比較	-3.9	-4.8	-1.0	-7.0	-3.0	-7.6	-4.7	-2.7	-9.0	-6.0	-7.6	-6.1	-3.0	-10.0	-3.0	-9.9	-6.5	-3.3	-10.0	-5.0	-5.7
全国比較	-3.0	-4.5	+0.3	-7.4	-2.1	-6.6	-4.3	-1.3	-8.2	-5.2	-9.4	-7.4	-4.8	-11.6	-4.1	-10.3	-7.4	-3.6	-11.1	-4.9	-5.8

市内各小・中学校における授業時数増加（5日間分）に伴う 学力向上対策と課題

東松島市教育委員会

1 学力向上対策

【教育課程での工夫】

<小学校>

- ・ 5日間の授業日数増加分として、3年生以上の外国語活動に15時間、昨年度まで5時間授業後に行っていた家庭訪問について余裕を持って4時間で切り上げた時数（6～7時間）に充てた。全体として、ある程度余裕を持った教育課程が編成されている。
- ・ 平成32年度に向けて新たな教育課程を編成していく際に、5日間（2.5～3.0時間）を含めた計画で進めていくことができ、前提となる授業時数の確保がある程度できているのは安心であり、無理にこれまで行っていたものを切り詰めることなくできるものと考えている。
- ・ 補充学習の時間を増設し、個別指導の充実を図っている。月2回程度、全校一斉での設定。
- ・ 業前の時間の充実を図っている。具体的には読む力を向上させるための読書タイムの充実等。
- ・ ICT機器の講習会を実施し、ICT機器を活用した授業力の向上を図っている。

<中学校>

- ・ 週30時間での時間割作成をし、その内1時間を「補充の時間」としている。
- ・ 部活動のない日や定期考査前の放課後学習及び夏季休業中の学習会の実施。
- ・ セブノートを活用した家庭学習の定着。
- ・ 教科や「総合的な学習の時間」の時数確保に活用している。

【授業改善に向けての対策】

<小学校>

- ・ 学力向上に向けては、授業の質の向上や家庭学習の習慣化、ゲームの時間などの生活習慣の見直しをはじめ、教科担任制や少人数指導、通級指導等を一層充実させていきたいと考えている。加配教員の確保が必要である。
- ・ 「魅力ある学校づくり調査研究事業」を活用した実践を行っている。
- ・ 校内授業研究を推進している。言語活動の充実を図る学習過程の実践。
- ・ 授業時数の増加により生じた放課後の時間を教員の研修や教材研究の時間にあて、授業力の向上を目指している。
- ・ 学年部ごとに副担任を配置し、教務主任・教頭も授業に配置することで少人数指導、T・Tの授業の充実を図っている。担任の空き時間ができ、教材研究の時間が増えている。
- ・ 宮城県教育委員会による「学力向上に向けた5つの提言」を踏まえた協働による授業づくり。

<中学校>

- ・ 生徒の実態を検証し（年2回）、課題を洗い出し授業の見直しを行っている。
- ・ 1人1回の授業研究会の実施。
- ・ 5日分の放課後を部活動なしとし、教科部会や教材研究の時間を確保する。
- ・ 生徒同士で教えあう活動を増やし、生徒主体で課題解決に取り組めるようにした。

2 学力向上についての現状（成果を含む）と課題

【現状】

<小学校>

- ・ 県や全国に比べ極端に劣っている学年はないものの、個々の児童が更に伸びる要素は多くあると思われる。不登校を含め、家庭的な格差が見られ、個々の対応を行ってはいないものの、それが学力の差となって表れている状況も見られる。
- ・ 日常の授業参観から、児童は授業には集中して取り組んでおり、有効な手立てを講ずることで一層学力的な伸びは図られるものと考えている。
- ・ 震災当時4歳の6年生児童は、避難所生活の長い児童が多く、認知面・情緒面・行動面で問題を抱える児童が多く、学力低下の原因となっている。落ち着いた環境下での学習支援が必要であり、放課後や家庭学習等組織的な個別支援の充実に取り組んでいる。

<中学校>

- ・ ノートやワークブックの提出と添削指導等により、家庭学習の取組も浸透しつつある。
- ・ セブンノートと家庭学習ノートの提出はほぼ全員であり、定着しつつある。
- ・ 数学の問題の解き方で学びあい活動を多く取り入れたことにより、計算できる生徒が増えた。
- ・ 学習意欲の差の開きが大きい。

【課題】

<小学校>

- ・ 子どもの力を引き出す教員の授業力の向上が求められている。不登校や特別に支援を要する児童、生徒指導等への対応に時間が取られる状況にあり、授業研究を中心とした校内研究が停滞気味である。授業改善に向けた研修を意図的に設定するとともに、教員が教材研究をはじめとした授業の準備に要する時間の確保を行っていききたい。
- ・ 家庭を含めて個別に支援を要する児童に対する指導機会の確保と指導体制の整備が必要である。保健室・別室登校が数名いる学校もあり、担任外の教員に余裕がなくなっている。
- ・ 魅力ある学校づくり調査研究事業の質問項目である「授業に主体的に取り組んでいる」「授業がよくわかる」の割合を上げる。
- ・ テレビやゲーム等の時間が長い傾向にあることから、家庭学習の習慣を身に付けさせることが必要である。
- ・ 学習意欲の向上と読む力や思考力が不足している。
- ・ 学校図書館の蔵書の充実。

<中学校>

- ・ 日常の授業改善を一層意識して取り組んでいく必要がある。
- ・ 「与えられる家庭学習」から、「自ら取り組む家庭学習」への脱却を図る必要がある。
- ・ 数学の「関数」、英語の「読むこと」等の指導の充実が必要である。
- ・ 学力向上の最終的目標を教職員間で共通理解し、設定する必要がある。
- ・ 中学校区内での小・中学校教員で、家庭学習の習慣化や内容について検討する場が必要である。

市内各小・中学校における英語教育の取組と課題

東松島市教育委員会

1 英語教育の取組について（小学校外国語活動、中学校英語）

【特色ある英語活動、工夫していること等】

<小学校>

- ・ すべての授業でALTを活用するとともに、担任による授業を基本とし、授業プランの作成とねらいの明確化を図っている。
- ・ ALTの他に、英語活動で県教委の非常勤加配による専門性の濃い授業を行っている。
- ・ 1、2年に年5回程度、ALTとの外国語活動を位置付けている。
- ・ 毎月1回、木曜日の業前活動で学年や学級単位でEタイム（朝の英語活動）を行っている。ALT1名と学校支援ボランティア2名の計3名で、英語による読み聞かせや歌などをおして英語に親しませる活動をしたりしている。
- ・ ネイティブな英語に親しむ機会を設定していることから、児童はさほど抵抗なく英語活動に親しんでいる様子が見られる。
- ・ ICTの活用による授業の工夫をしている（ipadを活用した授業の展開）。
- ・ 身の回りの表示を英語にして、日常的に英語になじませている。
- ・ 図書室に英語教育に関連する本のコーナーを設置し、興味・関心を高めている。

<中学校>

- ・ ペア、クラス全体でインタビュー活動を多く取り入れている。
- ・ 学習カードの活用により、予習→授業→復習→予習・・・の学習サイクルの定着を図っている。
- ・ 時間制限を設けた書く活動を実践している。
- ・ 4人グループによる練習問題の学び合いと教え合いを行っている。

【現状（成果を含む）】

<小学校>

- ・ 児童の関心・意欲が高まり、体験を通した言語への気づきが見られる。
- ・ 担任とALTの役割を明確にするなど、ALTの活用を工夫している。
- ・ ゲームやチャンツなどを通して、楽しくコミュニケーションができる子どもが増えた。
- ・ 小学校として目指す学びを意識することができるようになった。

<中学校>

- ・ 英語で話すことへの学級全体の抵抗が少なくなった。
- ・ ICTの活用により、時間を有効に使った練習ができる。

【課題】

<小学校>

- ・ 学習指導要領完全実施に向けて、小学校においても専門性を兼ね備えた教員の配置と英語科免許保有の教員育成が必要になってくる。
- ・ ALTや専科教員の勤務時間等により、担任を含めた3人そろっての授業の打合せの時間が十分に確保できていない。
- ・ 教員に対して、教科化に対応した英語の指導力を向上させる必要がある。
- ・ しっかりと聞くところと楽しむところのメリハリをつけた授業を心がける。

<中学校>

- ・ 生徒の個人差に対応した授業を一層工夫する必要がある。
- ・ ICTを効果的にさらに活用したい。
- ・ 単語を書いたり、英文を作ったりする力が不足している。